

▼オキサトミド錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】オキサトミド Oxatamide 【分類】アレルギー性疾患治療剤

【単位】▼30mg/錠

【常用量】60mg/日

【用法】分2, 朝と眠前

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (3,12)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし (3,12)

【特徴】肥満細胞において細胞内のCa抑制作用を介してヒスタミン、ロイコトリエン等のケミカルメディエーターの遊離を抑制し、遊離されたヒスタミン、ロイコトリエンに対して強い拮抗作用を示す。他に PAF, セロトニン, ブラジキニンにも拮抗。止痒効果が早期に発現し他剤に比し止痒効果が強い。季節性アレルギー疾患に対しても有用。

【主な副作用・毒性】ショック, アナフィラキシー, SJS, TEN, 血小板減少, 肝機能障害, 黄疸, 錐体外路症状, 意識障害, 眠気, 倦怠感, 消化管障害, 動悸, ほてり, 月経障害, 女性化乳房, 浮腫, 鼻出血, 膀胱炎様症状など

【安全性に関する情報】過量投与時の症状は, 錐体外路症状, 痙攣, 意識障害, 傾眠, 血圧低下, 洞性徐脈, 縮瞳等が発現した例があり, 対症的に治療 (1)

【F】72% [イヌ] (1)

【tmax】2~4hr (1)

【代謝】piperazine 及び benzimidazolone の N 位の酸化的脱アルキル化及び benzimidazolone の芳香環水酸化による代謝経路をたどる (1) 代謝物の 6-水酸化体は未変化体と同程度の活性を有する (1) 酸化的代謝には CYP3A4, 2D6 が関与 (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率 2%未満 (12) 尿中に投与量の 36.5%, 糞中に 50.3%が排泄される [24hr まで] (1) 【非腎 CL/総 CL】100% (10)

【t1/2】14hr (10,12) 10hr (1)

【蛋白結合率】93.3~98.7% (1) 91% (10) 98% (12)

【Vd】データなし (12) 資料なし (1)

【MW】426.55

【透析性】蛋白結合率が高いため, 除去されにくいと思われる (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】TDM の対象にならない 【O/W 係数】954 (1) 【pKa】3.56, 7.20 (1)

【更新日】20200404

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。